

学校教育目標
『誠実』『自発』
定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会で信頼される人間として自立し、貢献できる人材を育成する。

重点目標(中・長期的目標)		総合評価					
①働きながら学ぶ・・・職業観の育成、基礎基本の徹底		不登校経験者が過半数を占めるが、高校では毎日登校しようと努力している生徒が多い。学校生活やアルバイトを通して自信がつくことで、自分の目標や可能性に向かう姿勢につながっている。学習面では基礎基本を重視しつつ、少人数の利点を活かして個々のニーズにも対応した指導を行っている。生徒とのふれあいを重視し仲間を大切にする気持ちを醸成することで、安心・安全な学校作りに努めている。多くの生徒は教室や仲間が自分の居場所となっている。一方で、なかなか学習に気持ちが向かない者、対人関係の難しい者、精神的な不安定さを抱える者などもある。そうした生徒にはしっかり寄り添って、自分がどうあるべきかを考えさせ、支えて行きたい。また外国由来の日本語力不足の生徒がおり、その対応の充実が課題である。生徒一人ひとりにきめ細やかに対応し、彼らの自主性・自立性を育て、将来を応援していけるよう、職員一丸となって努力していきたい。					
②仲間を大切にする・・・いじめ・暴力の根絶							
③自ら考え、行動する・・・自主・自立							
今年度の重点目標							
1 定時制の特色と少人数教育の特徴を活かし、生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、地域社会で信頼される人間として自立し、貢献できる人材を育成します。							
2 相手を尊重し、自己を肯定できる、丸く豊かな心を育てます。							
評価項目		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
① アルバイトの奨励	(キャリア教育)	就業率はR7年12月現在 37名中 23名(約 62%)。ほぼ全員アルバイトだが一部に家業に携わる者もいる。就業経験を有意義に活かしたい。(就業率:R1 66%→R2 44%→R3 56%→R4 58%→R5 58%→R6 74%→R7 62%)。		○			登校までの時間を有意義に使い、社会体験を深める観点からアルバイトを奨励する。様々な事情を抱えた生徒たちだが、仕事を体験することの意義を示しつつ、意識づけをしていきたい。求職活動に関して、外部機関との連携も進めていきたい。
② 少人数学習による基礎基本の徹底、進路につながる資格取得	(学習指導)	英語、数学の基礎学力養成に効果をもたらしている。商業系科目では、全商ビジネス文書実務検定3級に2名が合格し、1名が全商簿記検定3級合格を目指し頑張っている。		○			少人数による指導のメリットを生かし、個々の生徒が学力を伸ばすことを楽しめるような教材を工夫する。各種検定受検を目指すことで学習意欲の向上に繋げたい。
③ 生徒の変化を見逃さず、いじめ・暴力を許さない安心・安全な学校	(生活指導)	指導の対象となる問題行動も少なく、年間を通じてほぼ落ち着いた学校生活を送ることができた。一人ひとりに声をかけ体調や不安な気持ちがないか確認しながら指導できた。		○			問題行動への対応や交通安全など、継続して指導していく。また、教員間で連携を図りながら、生徒が心を開きやすい環境を作り、「生徒の居場所」ができるようにする。
④ 生徒が主体的に取り組む校友会活動・学級活動・クラブ活動	(校友会)	校友会活動では、ほとんどの行事を生徒が主体的に運営することができた。実施する行事のアイデアを校友会役員や生徒に聞いた際、マンネリ化を感じた。安定して行事に取り組めるメリットもあるが新しい取り組みも入れて良いと感じた。クラブ活動では多くの先生方にも携わっていただいたおかげで、生徒がのびのびと活動できていると感じた。		○			引き続き生徒主体の校友会活動を行うことを目指し、生徒がアイデアが出しやすい手立てや期間を設定する。バスケットボールの人数確保のため、生徒に呼びかけや体験する機会を設ける。
⑤ 卒業後の社会的自立と進路希望の実現 全日制進路室との連携	(進路指導)	進路指導室と連携を図り、計画通り進めることができた。4年生9名それぞれが希望の進路に向け前向きに活動し進路先を決定している。	○				一人ひとりの希望に応じたきめ細かな対応に努める。
⑥ ユニバーサルな学習環境の整備	(教務)	不登校傾向、心身の不調、場面緘黙、日本語の能力不足など、さまざまな困難を抱えている生徒に対して、合理的配慮をしながら可能な限り個々の事情に応じた対応、指導を行った。しかし、やむをえず進路変更・休学等に至った生徒もいる。		○			心身不調の生徒への対応としては、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーとの連携、保護者や家庭との連絡体制の強化などをいっそう図る。日本語能力不足の生徒に関しては、日本語授業の時間数を確保していく。

領域		評価項目		評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
教育活動	学級経営	1学年	基本的な学習・生活習慣の定着。互いに他者を認め合い個性を尊重する学級づくり。	毎日登校・出席し、規則正しい生活がおくれるようになったか。クラスメイトとして互いに尊重しあえたか。	不登校経験者が非常に多い中で、毎日登校し、学習する習慣が身に付いてきた生徒も出てきた。一方で、学校での学びの継続が困難になった生徒も出てしまった。今まで、他者との関わりが少なかったことから、社会性を少しずつ身に付けていく必要がある。		○			生徒とのコミュニケーションを大切にしていくとともに、保護者との連絡を密に取り合って、サポートをしていく。
		2学年	自ら学ぶ姿勢を身につける。欠席を少なくする。コミュニケーション能力を身につける。	授業を自主的に受け、大切にできたか。欠席を少なくすることができたか。校内行事や友人関係に積極的であったか。	欠席なく、毎日登校できている生徒は一部である。また積極的に学習に向かう姿勢ができていない生徒も見られる。今後、進路を意識させながら指導していく必要がある。		○			卒業後の進路について考えさせることで、日々の授業の大切さを認識させていく。
		3学年	学習・校友会活動への積極的な取り組みと、自己の進路希望実現に向けた意識・学力の向上。	学習・校友会活動などに自ら進んで参加できたか。自己の適性・興味に沿った進路を意識した学習活動ができたか。	校友会活動を通じて上級生としての意識の向上が見られた。また、面談・懇談会で卒業後の進路を考えさせ、進路を意識した学習活動ができた。		○			卒業後の進路に向けて、いつ・何をするかを把握させ、目標までの道のりを明確にする。
		4学年	最上級生としての自覚を持った行動をする。卒業に向け、一人ひとりの希望進路の実現を図る。	学習・生活・校友会などで自覚を持った行動や活動ができたか。日ごろの指導を通して、生徒と保護者に常に進路を意識させ、生徒・保護者が希望する進路を実現することができたか。	校友会役員を務めた生徒も多く、最上級生としての行動が随所で見られた。進路についても希望通り進めることができた。卒業までに社会人としての自覚を持たせることが必要であると感じた。	○				進路希望は多岐に渡っているので、一人ひとりの希望を丁寧に聞き取り、きめ細やかな対応が必要である。
	教 養	遠足 (3学年)	遠足で出向いた地域の文化や産業、歴史に触れ、豊かな感性を育てる。周囲との協調性を養う。	行事への参加を通じてその地域の産業の実情や文化、歴史の素晴らしさを再認識することができたか。集団の一員としての行動がとれたか。	今年度は貸切バスを利用して、10月末に実施した。名古屋港水族館等を見学し、名古屋の文化を学び、見識を広めた。また、集団行動を通して協調性を養った。		○			旅行先や経費等を含め、当該学年に相応の計画を立てることが必要である。
		生活体験 発表	自己の生活体験を振り返って発表したり、それを聴いたりすることで、自分の生き方について考える。	生活体験発表大会に発表者あるいは聴き手として積極的に参加し、各自が自分のことを深く考えることができたか。校内大会をスムーズに運営できたか。	発表は素晴らしく、聴く側の態度も良く、自分を見つめることができた。発表予定者の欠席が少なくて良かった。昨年に引き続き、振興会役員の皆様にも聴いていただいた。		○			特別時間割を組んで取り組むことで、全員が作文を書くことができた。生徒全員の作文を、後日職員で回覧したことで生徒理解の一助となったので、次年度以降も継続して取り組んでいきたい。
		視聴覚 図 書	芸術鑑賞を通じて、豊かな心を育む。授業やその他諸活動を通じ、生徒が図書と親しむ楽しさや重要性についての意識を高める。	芸術鑑賞の企画・運営が適切で、生徒各々が題材について何かを考え、感じることができたか。またそれを表現できたか。図書館の利用率が向上したか。また、日常生活の中においても読書をする生徒が増えたか。	諏訪地域で演奏活動を行う室内楽団体に演奏を依頼しコンサートを行った。音楽の生演奏を身近に体験している生徒は少なく、良い経験になった。積極的に生徒が手を挙げて楽器体験を行うなど、手ごたえを感じることができた。		○			芸術の鑑賞は生徒に予備知識が少ないため見どころが理解しにくいところがある。意識を高める働きかけを工夫したい。読書週間は3年目となったが、図書館を利用する機会にはなっているが、それ以上の利用には繋がっていないのが課題である。
		人 権	自己と他者の人権を認識し、考え、学校生活や進路選択などにおいて人権尊重の精神をもとに思考・判断することができる人権感覚を養う。	学校生活や進路選択に際し、望ましい人権感覚のもとに思考・判断することができたか。また、日頃の教育諸活動から生徒が直面する人権の問題に関して、生徒の意識を高めることができたか。	国立ハンセン病資料館の講師を招いて日本のハンセン病とその人権問題について理解を深める。(1月中旬に実施予定)		○			本年度は特定の社会問題を取り上げたが、人権教育の内容は幅広いため、どのような内容の人権教育を行えばよいのか4年間を通じた視野での検討を続けていく。

教育活動	校友会	運動委員会	生徒主体で全校運動の企画・運営・進行を行う。運動を通して、他者と積極的に関わり、コミュニケーションをとる。	生徒が主体的に全校運動の企画・運営・進行ができたか。運動を通して、他者と関わることができたか。	生徒自ら運営、審判を行うことで生徒主体で進める事ができた。		○		生徒の実態に応じた内容、やり方を検討していく。
		出 版	校友会誌「科」の発刊。校内での出版を行なう。内容の充実を図る。	校友会誌原稿を意欲的に作成できたか。校内での出版に伴い、製本作業等を協力してできたか。	2月より入力指導を予定。出版委員の活動も含め2月末の発刊を目指す。		○		充実した内容となるよう、出版委員会の生徒の活動を指導する。
		選挙管理	前期・後期の校友会役員選挙を確実に実施する。	選挙管理委員が協力して、公正・公平な選挙を実施することができたか。	立候補者や推薦人はしっかりと演説できて、良い選挙になった。立候補者に若干の欠席があったのは残念であった。選挙管理委員は、その職責をしっかりと果たすことができた。		○		立候補することをためらったり、人前に立つこと自体が難しい生徒も多いが、良い経験になるという意味からもアピールしていく。管理委員の生徒が、より積極的に活動できるように指導して行く。
		定時制祭	生徒が主体的に、思い出に残る定時制祭を創り上げる。定時制祭を通じて社会性を育成すると共に、充実感・達成感を持てるようにする。	生徒同士、生徒と職員、職員同士での協力・連携がとれたか。全員参加で協力して、思い出に残るものにできたか。	ボウリング大会では生徒の司会進行で主体的に運営することができた。生徒どうしの親睦の良い機会にすることができた。		○		集団に加われない生徒もあり、その対応が難しい。また、世代の特徴がボウリングに親しみのない生徒も増えている。実施方法や内容等含めて検討が必要である。
		クラブ	クラブ活動を通じて、他者と関わる力を身につける。種目ごとに、目標を設定し取り組む。	種目ごとに仲間と協力し、一丸となって目標に向かうことができたか。本校クラブ活動の規則を守り、活動に取り組むことができたか。	5名南信定通大会に参加。そのうち1名は卓球競技で全国大会と北信越大会に出場することができた。バスケットボールを好んで活動する生徒が数人いる中、人数確保ができなかったため、その他の生徒に呼びかけをする。		○		全国大会や北信越大会に出場したいと考える生徒も数人いるため、ニーズに沿った活動を検討する。また1日の活動時間が短いため、効率的な練習ができるように生徒とコミュニケーションを取りながら活動を行う。人数確保のため、体験する機会や呼びかけを設ける。
	生徒指導	生活指導	いじめを含む問題行動の把握に努め、問題行動が生じた際には迅速に指導を行う。生徒の登下校の手段を把握し、常に交通安全に留意させる。	悩みや不満を抱えている生徒への対応を、担任と連携してできたか。問題行動の改善に努めることができたか。挨拶や言葉遣いなどに留意し、互いを尊重しあう人間関係を築けるよう指導できたか。	喫煙1件、自動車事故1件、人間関係におけるトラブル1件、特に大きな問題もなく落ち着いていた。指導においては個々に対応するとともに全校集会等で注意喚起に努めた。人間関係のトラブルなど生徒間の関わりに対して、日頃から職員で協力して生徒への支援協力体制を整えることができた。		○		日頃の生徒の様子を大切にし、様々な観点から声かけを実施し、よりよい環境をつくる。自転車事故等防止のため施錠、ヘルメット着用、保険加入等交通ルール指導の徹底を図る。
		保 健	生徒の状態や場面に応じた指導と対応で、心身の健康を目指す。	生徒の不安定な様子や小さなサインを見逃さなかったか。生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導できたか。健康意識の向上につながる指導・取り組みができたか。職員間で情報共有を行い、連携がとれたか。	「デートDV防止」や「薬物乱用防止」についての講話を実施できた。職員間での連携を心がけ、生徒個々の心身に寄り添った対応、指導に努めた。		○		更なる開かれた保健室をめざし、生徒とのコミュニケーションを大切にしながらよりよい関係づくりを継続する。職員間での情報共有を密にし連携しながら、生徒への指導・支援を継続する。
	進路指導	進路指導	進路指導を計画的に行い、進路に対する意識の向上および早期確立	各学年のニーズに応じた取り組みができたか。	7月に全校への進路講演会を実施した。今年度は本校定時制の生徒が具体的な進路実現の道筋を描ける内容と考え、就職支援員による講演会を行い、4年生での就職活動につながる3年生までの過ごし方について講演をしていただいた。		○		本年度の講演会は低学年のうちからの進路への意識づけをする機会になった。日常の様々な場面で進路を意識させる場を持ち、3学年くらいからは具体的な行動が起こせるように指導を工夫したい。
		キャリア教育	アルバイトの奨励。仕事や就職試験などに興味を持たせる。職業観を確立する。	進路ガイダンスなどを通して職業観を確立することができたか。就職試験などで個別の支援、対応ができたか。	進路ガイダンスから企業見学へスムーズにつなげることで、生徒の前向きな取り組みを引き出すことができた。進路指導に関しては、担任を中心に個別でねばり強い指導が見られた。今年度は、就職だけではなく、専門学校への進学等の対応も行った。		○		アルバイトは奨励していきたい。進路に関しては、毎年生徒の様子が違うことから、一人ひとりに対応する難しい部分がある。今後ともハローワークや福祉作業所などの外部機関と連携して、全員の進路実現に向けて努力を重ねていきたい。
	特別支援	校内支援体制の充実。多くの生徒がよりよい学校生活を送れるように、支援や必要に応じた個別支援の実施。各機関やスクールカウンセラーの活用。		校内の支援体制の充実と、生徒一人ひとりの実態の把握ができたか。個別の支援や対応ができたか。	生徒一人ひとりの状況の把握と、寄り添った対応を継続していく。カウンセラー等との連携を引き続き綿密に行う。		○		統一性を持って個々の支援、指導に繋げていくために、教員全員での情報共有、生徒の状況把握を継続していく。必要に応じて外部機関との連携も検討していく。
学校運営	地域との連携	定時制教育振興会	定時制教育振興会の充実をめざして、振興会活動の活性化を図る。	会員同士の親交と生徒の支援を担う振興会に対する意識の向上を図ることができたか。	予定どおり振興会の総会を実施することができた。今年も校内生活体験発表会に正副会長をお招きし、生徒の発表を聞いてもらう機会を設けることができた。会員同士の交流を年度内に実施する予定。		○		個人会員の在り方・振興会費の有益な使い方を引き続き検討したい。
		PTA同窓会	保護者と学校との架け橋の一翼を担うべく、環境作りに努める。	保護者・同窓生・地域のみなさまに、学校生活の様子を知ってもらうことができたか。	保護者懇談等を実施し、家庭と学校との情報交換の場は確保できている。同窓会報の定時制コーナーに記事を発表してもらっている。		○		定時制でのPTA活動について、内容を検討したい。
	教 務	総 務	定時制の教育活動がスムーズに行われるための環境作り。全日制との協同。	先を見通した計画が提案できたか。HPや学校通信による情報提供がしっかりできたか。全日制との情報交換を密に行えたか。	様々な業務を円滑にこなすことができた。全日制との情報交換もおおむね良好であったが、これから入学選抜の時期なので、連絡を密に取り合っていきたい。		○		先々を見通して、余裕をもって業務に当たることを心がける。全日制との連携はさらに深めたい。
		防 災	災害時、安全に避難できる体制づくりを目指し、防災に対する意識を高める。	春は地震・火災を想定した避難訓練において適切な行動ができたか。秋は防災教育を通じて災害発生時における適切な行動を学ぶことができたか。	春の避難訓練は実施日の変更はあったが、内容としては予定通り実施することができた。また、秋から冬にかけて災害・防災について地震体験車での体験を通じての学習でき、とても良かった。次年度も同様の体験ができると良いと思う。		○		避難訓練は繰り返し体験することが大事であるので、次年度も確実に実施したい。
		清掃美化	清掃を通じて、校内美化の意識を高める。	一斉清掃に真剣に取り組むことができたか。教室や廊下等がきれいになっているか。	通常清掃する場所に加えて必要に応じて重点的に行う場所も真剣に一斉清掃に取り組むことができていた。		○		月に一度しかない一斉清掃なので、引き続き時間いっぱい取り組み、自ら気づいて行動できるよう声がけをしていく。
		学習指導	「総合的な探究の時間」について、内容を確認させ積極的に学習するよう指導する。	少人数講座である利点を生かし、指導内容を工夫した授業になったか。「探究の時間」について充実した内容となったか。	金融教育(1月に予定)など社会人講師等を取り入れることで生徒が「探究の時間」に意欲的に取り組むことができた。また、他学年でも担当者による興味深い内容で実施できた。		○		少人数講座による「探究の時間」で扱うテーマや内容など、担当教員の更なる工夫が求められる。
	給 食	毎日パンを食べてもらう。牛乳を飲む生徒を増やす。給食を通して、食べ物の大切さや『食』について関心を持たせる。		パン、牛乳の余りを減らせたか。生徒の食生活の改善・向上の指導ができたか。今後の給食の在り方や充実について検討できたか。	担任の先生方の声かけもあり、パンの食べ残しはほとんどなくなった。牛乳については希望者が少し増えた。飲み忘れがないように呼びかけをすることができ、余りはほとんどなかった。		○		給食の在り方、内容の検討を引き続き行う。牛乳は注文希望の変更等を年度途中にも確認する。